



日差しには少しずつ春の兆しを感じられるようになりました。進級・進学を控えた子どもたちの表情も、どこかしら誇らしげに見えます。先日は体育参観、そしてクラス参観へのご参加ありがとうございました。

体育遊びでは、たくさんのお家の方に見守られ、ちょっぴり恥ずかしくなってしまった子もいましたが、それぞれの成長段階に合わせた、生き生きとした姿が見られたのではないのでしょうか。

クラス参観では、1年間の振り返りや流行りの遊びの紹介、試食、劇等、各クラスのカラーが溢れていました。

この一年、園では子どもたちの「やりたい！」という意欲を何よりも大切に保育をしてきました。しかし、その道のりは、どのクラスも順風満帆に進むものではありませんでした。

次々に移ろう興味、分かれる意見、思うように進まない計画…。担任も時に立ち止まり、悩み、子どもたちと共に話し合いをする日々でした。

クラスの話し合いの中では、「ハロウィンパーティーがしたいけど、お菓子を買うお金がない💰💧」「みんなで決めたのに、嫌だと言うお友達がいる(-_-)」「(リレー)何回も話し合い、練習しても勝てない🏆」等々の意見が。

そんな時、担任が「じゃあ～どうする?」「どうしたらいいと思う?」と子どもたちに投げかけると、子どもなりに色々意見や案がでてきます。「じゃ～お店屋さんをして、お金を稼ごうよ!」と売り物作りを頑張る姿。「自分も嫌だって思ったことがある…」と自己開示してその子に寄り添う姿。「負けたけど、頑張ったからいいやん。」とそれまでの自分達の努力を認め、気持ちに折り合いをつける子どもたち。

問題にぶつかり、試行錯誤する過程に、多くの学びが詰まっています。子どもたちは、友達と一緒に喜びや悲しみを分かち合い、失敗や妥協を経験しながら、自分の気持ちをコントロールすることを覚えていきます。こうした「葛藤」の積み重ねが、自らの人生を切り拓く「主体性の力」へと繋がっていくのだと思います。

これからも、寄り道をしながら迷いながら、一つひとつの出来事に子どもたちと丁寧に向き合い、自ら考え、動き出す力を育てていきたいです。主体的な保育を目指して(*´0`) / オー!!

絵本紹介

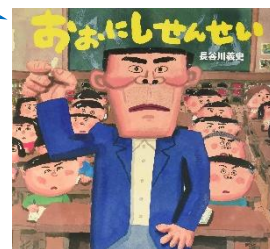
絵本「おおにしせんせい」(著作 長谷川義史)

おすすめ絵本

長谷川さんの実話に基づいた絵本です。大西先生の図画工作の授業は、太筆 1本とバケツに下敷きのパレット、1～6限目まで絵を描きます。さっさと絵を描いて友達と遊ぼうと思っていた「ぼく」でしたが、先生の「よーく みてみ。ろうかさわってみ」との言葉に…

『ぼくは ぼくの ぼくが かんじる ろうかをかきはじめて』とぼくの心が動き出します。

「こんな先生に習いたかった!」と思うユニークで素晴らしい先生のお話です。



子どものつづやき

★卒園式の証書渡しの練習を初めて行った時のこと。園長:「みんな『はい』って大きな声で返事ができているね🌟」と言う。「ページェント(クリスマスの劇)の成果やな。」とさらっというこひつじ組のA君。一人で大きな声を出すのに勇気がいったA君らしい言葉でした。

★お外で給食を 食べていたこりす組のBちゃん。

ヒューと吹いてきた風に「あつ! 楽しい風だね♥」と。子どもの表現って素敵ですね(^_^♪

